

を築くためには、さらなる安定した資金導入の道を探る必要があります。会員のご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。(山崎昭・小川英治)

2.TCER 研究会

2002 年度の TCER 研究会は一橋大学にて行われました。8 月以降のスケジュールを掲載します。(敬称略。)

2002 年 10 月 15 日 (木) 大湾秀雄 (Washington University)

“Team Incentives and Worker Heterogeneity: An Empirical Analysis of the Impact of Teams on Productivity and Participation”

2002 年 10 月 18 日 (金) Paul Beaudry (University of British Columbia)

“News, stock prices and economic fluctuations” (joint with Franck Portier)

2002 年 10 月 22 日 (火) Hong Hwang (National Taiwan University)

“Production Function and Optimal Trade Policy in Vertically Related Markets”

2002 年 11 月 5 日 (火) 元橋一之 (一橋大学イノベーション研究センター)

「企業の情報化とパフォーマンスに関するマイクロデータを用いた実証研究」

2002 年 11 月 12 日 (火) 市野泰和 (甲南大学)

“Lobbying for Administered Protection”

2002 年 11 月 28 日 (木) 伊藤隆敏 (東京大学)・原田喜美枝 (大東文化大学)

“Market Evaluations of Banking Fragility in Japan”

2002 年 12 月 3 日 (火) 久保克行 (一橋大学経済研究所)・宮本光晴 (専修大学)

“The Effect of Performance-related Pay on Employees' Motivation in Japanese Firms: A study from the Viewpoint of Psychological Contract”

2002 年 12 月 17 日 (火) 宇都宮浄人 (一橋大学経済研究所)

“An Analysis of the Employee Stock Options in Japan”

2003 年 1 月 14 日 (火) Christina Ahmadjian (Graduate School of International Corporate Strategy National Center of Sciences, Hitotsubashi University)

“A Clash of Capitalisms: Foreign Shareholders and Corporate Restructuring in 1990s Japan”

2003年1月29日(水) 松島 斉 (東京大学経済学研究科)

“Honesty-Proof Implementation”

3. TCER コンファレンス報告

(1) TCER コンファレンス「アジアの通貨危機」

TCER では昨年度から、ワシントン大学や台湾国立大学などアジア各国の大学と共同で、アジア通貨危機およびそれに関連したトピックスに関するコンファレンス・シリーズを共催している。このコンファレンス・シリーズでは、海外の研究者と積極的に交流をはかることを通じて、国際金融の諸問題を理論的・実証的に分析し、危機の再発を防止するのに役立つ国際金融制度の設計を行うことを目標としている。アジア通貨危機に代表されるように、90年代以降、国際金融市場においてしばしば深刻な危機が発生した。このため、危機の再発を防ぐための新しい国際金融システムの制度設計は急務であるといえる。

昨年は、主催という形で東京大学山上会館にて2001年7月17-18日にかけてコンファレンスは行われた。本年度の主催は台湾国立大学で、「アジアの通貨危機IV：回復への道」(Asian Crisis IV: Road to the Recovery)をテーマに、2002年7月24-25日、台北の台湾国立大学で実施された。本年度は、TCERからの支出はゼロであったが、TCERの研究者およびその関係者として、以下の方々が派遣された(費用は、科学研究費などで別途負担)。

派遣メンバー一覧：

伊藤隆敏(東京大学)、小川英治(一橋大学)、木村福成(慶応大学)、高阪章(大阪大学)、渋谷浩(小樽商科大学)、武田文子(横浜市立大学)、橋本優子(慶応大学)、福田慎一(東京大学)

(2) 第4回 TCER-CIRJE マクロコンファレンス

TCER は1999年から東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター(CIRJE)と共催で、日本のマクロ経済の実証研究をテーマとするコンファレンスを開催している。第4回にあたる今年度のコンファレンスは2002年9月28日(土)、京都市勧業会館(京都みやこめっせ)で開催され、26名の参加者を得た。幹事3名(林文夫[東京大学]、チャールズ・ホリオカ[大阪大学]、有賀健[京都大学])の協議により、応募論文のなかから6本を選んだ。今年度は、最初の2本を大学院生セッションとして、やや時間を短くし、全体で6本の発表を組んだ。これも例年通り、発表の時間よりも討論の時間を大きくとるスタイルをとったが、例年にも増して活発な議論が展開された。4回のコンファレンスを経て、時間の大半を討論に割くスタイルが参加者にも定着したといえよう。論文のテーマは消費、財政政策、投資、金融と様々であったが、いずれも優れて現実的な問題意識にたち、しかも理論、データ構築、分析手法などの側面で工夫や特長を持つ興味深い論文であった。また、今年度も昨年につき、多くの大学以外の研究者・女性研究者の参加を得た。2003年度は東京で開催の予定である。(なお議事録や当日の写真を<http://www.kier.kyoto-u.ac.jp/~ariga/index.htm>で公開しています)

第4回コンファレンスのプログラム

各セッションのフォーマット：

- (1) - (2) 発表者 15分、討論者 15分、残り時間は一般討論
- (3) - (6) 発表者 20分、討論者 20分、残り時間は一般討論

大学院生セッション

- (1) 9:30-10:20

山田 憲 (大阪大学大学院経済学研究科)

Intra-family Transfers in Japan: Intergenerational Co-residence, Distance, and Contact

討論者 林 文夫 (東京大学大学院経済学研究科)

- (2) 10:20-11:10

大久保 正勝 (一橋大学大学院経済学研究科)

Intertemporal Substitution and Consumer Durables: An Analysis based on Japanese Data

討論者 宮尾 龍蔵 (神戸大学経済経営研究所)

11:10-20 coffee break

一般セッション

- (3) 11:20-12:30

清水谷 諭・堀 雅博 (内閣府)

Helicopter Drops of Money: Assessing an Unusual Experiment in Japanese Fiscal Policy

討論者 チャールズ・ユウジ・ホリオカ (大阪大学社会経済研究所)

昼食 12:30-13:20

- (4) 13:20-14:30

永幡 崇・関根 敏隆 (日本銀行)

設備投資、金融政策、資産価格 一個別企業データを用いた実証分析一

討論者 小川 一夫 (大阪大学社会経済研究所)

14:30-14:40 coffee break

- (5) 14:40-15:50

細野 薫・櫻川昌哉 (名古屋市立大学経済学部)

Soft Budget Problem in the Japanese Credit Market

討論者 小林慶一郎 (産業経済研究所)

(6) 15:50-17:00

堀 敬一 (立命館大学経済学部)・小佐野 広 (京都大学経済研究所)

Financial Relations between Banks and Firms: New Evidence from Japanese Data

討論者 胥 鵬 (しよ ほう ; XU,Peng) (法政大学経済学部)

6:00 頃 Group Dinner

出席者

祝迫得夫 (一橋) 大久保正勝 (筑波) 大野正智 (福島大) 大山昌子 (一橋) 小川一夫 (大阪) 小佐野広 (京都) 小林慶一郎 (経済産業研究所) 斉藤誠 (一橋) 櫻川昌哉 (名古屋市大) 櫻川幸恵 (跡見学園女子大学) 清水谷諭 (内閣府・経済社会総合研究所) 胥鵬 (法政) 関根敏隆 (日本銀行) 田村晶子 (法政) 永幡崇 (日本銀行) 橋本優子 (慶應) 細野薫 (名古屋市大) 堀敬一 (立命館) 堀雅博 (内閣府・経済社会総合研究所) 宮尾龍蔵 (神戸大) 森剛志 (京都大院生) 山田憲 (大阪大院生) 塩路悦朗 (横浜国大) 林文夫 (東大) チャールズ・ユウジ・ホリオカ (大阪) 有賀健 (京都)

(3) 15th ANNUAL TRIO CONFERENCE “New Development in Empirical International Trade”

TCER が米国の NBER、ヨーロッパの CEPR と毎年共催している第 15 回目の TRIO コンフェレンスは 12 月の 10 日及び 11 日に東京(国際文化会館)で行われた。本年から、経済産業研究所(RIETI)が共催に加わるようになった。今年のテーマは実証国際貿易であり、以下のようなテーマにつき研究論文が提出され、討議をした。

- (1)国内の地理と国際貿易の相互関係
- (2)企業レベルの輸出、直接投資の決定要因
- (3)日本の貿易構造

日本と米国から 3 本、欧州から 2 本、合計で 8 本の論文が提出された。経済産業研究所、日本銀行のエコノミストを含めて、合計で 27 名が参加し、活発な議論がなされた。なお、NBER から申し入れに答えて、今回のコンフェレンス論文は改訂後に NBER の Working paper となることになった。

プログラム

Organizers: David Weinstein, Columbia University and NBER、Takeo Hoshi, University of California, San Diego, TCER and RIETI, Sadao Nagaoka, Hitotsubashi University and TCER and Kyoji Fukao, Hitotsubashi University, TCER and RIETI

International House of Japan
Tokyo, Japan

December 10 - 11, 2002

TUESDAY, DECEMBER 10:

9:20 AM Welcome, Organizers

Chair: Takeo Hoshi, University of California, San Diego, TCER and RIETI

9:30 AM STEPHEN REDDING and ANTHONY J. VENABLES, London School of Economics and CEPR
Explaining Cross-country Export Performance: International Linkages and Internal Geography

Discussants

SHUMPEI TAKEMORI, Keio University and TCER

PETER DEBAERE, University of Texas

10:30 AM Break

11:00 AM DAVID WEINSTEIN and DONALD DAVIS, Columbia University and NBER
Trade Theory and Firm-Level Exports: An Empirical Assessment

Discussants

MOTOSHIGE ITO, University of Tokyo and TCER

STEPHEN REDDING, London School of Economics and CEPR

12:00 PM Lunch

Chair: David Weinstein, Columbia University and NBER

1:20 PM KYOJI FUKAO, Hitotsubashi University, TCER and RIETI
HIKARU ISHIDO, Institute of Developing Economies
KEIKO ITO, ICSEAD
Vertical Intra-Industry Trade and Foreign Direct Investment in East Asia

Discussants

SHUJIRO URATA, Waseda University, TCER and RIETI

JAMES HARRIGAN, Federal Reserve Bank of New York and NBER

2:20 PM JAMES HARRIGAN, Federal Reserve Bank of New York and NBER
Japan's International Trade: Is it Still Different?

Discussants

RYUHEI WAKASUGI, Yokohama National University and TCER

EIICHI TOMIURA, Kobe University

3:20 PM Break

Chair: Sadao Nagaoka, Hitotsubashi University and TCER

3:50 PM EIICHI TOMIURA, Kobe University
Changing Economic Geography and Import Penetration in Japan

Discussants

PETER DEBAERE, University of Texas

JOHN RIES, University of British Columbia

4:50 PM JOHN RIES and KEITH HEAD, University of British Columbia
FDI versus Exports: A Test of the Selection Hypothesis

Discussants

JOTA ISHIKAWA, Hitotsubashi University and TCER

KYOJI FUKAO, Hitotsubashi University, TCER and RIETI

WEDNESDAY, DECEMBER 11:

Chair: Kyoji Fukao, Hitotsubashi University, TCER and RIETI

9:30 AM SIMON EVENETT, World Trade Institute and CEPR
Do All Networks Facilitate International Commerce?: US Law Firms and the International Market for Corporate Control

Discussants

TAKEO HOSHI, University of California, San Diego, TCER and RIETI

SADAO NAGAOKA, Hitotsubashi University and TCER

10:30 AM Break

10:45 AM FUKUNARI KIMURA, Keio University and TCER
 TAKAMUNE FUJII, Aichi University
Globalizing Activities and the Rate of Survival: Panel Data Analysis on Japanese Firms

Discussants

LAIXUN ZHAO, Hokkaido University

DAVID WEINSTEIN, Columbia University and NBER

12:00 PM Lunch

1:00 PM Adjourn

(4) TCER プロジェクト (旧返子コンファレンス)

通貨制度研究会 (代表: 福田慎一・小川英治) の主催により、今年度は2回の研究集会を計画しました。第1回は平成14年7月26日(金)に台北のシェラトンホテルにおいて開催されました。また、第2回は平成15年3月15日(土)・16日(日)に鹿児島市の鹿児島県市町村自治会館において開催される予定です。

これらのプログラムは以下のとおりです。

(1) 第1回 (平成14年7月26日(金))

第1セッション 座長: 伊藤隆敏 (東京大学)

9:30-10:45

“Shocking Aspects of East Asian Monetary Integration: An Optimum Currency Area Approach”

報告者: 佐藤清隆 (国際東アジア研究センター)

コメンテーター: 小川英治 (一橋大学)・橋本優子 (慶應義塾大学)

11:00-12:15

“Exchange Rate Pass-Through in East Asian Manufacturing”

報告者: 武田史子 (横浜市立大学)

コメンテーター: 高阪章 (大阪大学)・佐藤清隆 (国際東アジア研究センター)

第2セッション 座長: 小川英治 (一橋大学)

13:30-14:45

“Consumption, home bias in preference, and the effects of a yen depreciation on Asia”

報告者：塩路悦朗（横浜国立大学）

コメンテーター：渋谷浩（小樽商科大学）・武田史子（横浜市立大学）

15:00-16:15

「アジア通貨危機とガバナンス構造」

報告者：花崎正晴（一橋大学）

コメンテーター：福田慎一（東京大学）

(2) 第2回（平成15年3月15日(土)・16日(日)）

第1セッション 座長：小川英治（一橋大学）

3月15日（土）

13:30-14:30

「新宮沢構想の効果に関するアジア各国の計量分析」

報告者：藤丸麻紀（和洋女子大学）

コメンテーター：小川英治（一橋大学）

14:40-15:40

“The Impact of Japanese Economic Cooperation on Asian Economic Developments”

報告者：川崎研一（内閣府）

コメンテーター：福田慎一（東京大学）

16:00-17:00

「マクロショックと株価の国際的連動」

報告者：大野早苗（高千穂大学）

コメンテーター：塩路悦朗（横浜国立大学）

第2セッション 座長：福田慎一（東京大学）

3月16日（日）

9:00-10:00

「為替相場のボラティリティと国際貿易—ASEAN諸国のケース—」

報告者：熊本方雄（東京経済大学）

コメンテーター：武田史子（横浜市立大学）

10:10-11:10

“Why Has Income Inequality in Thailand Increased? An Analysis Using 1975-1998 Surveys”

報告者：本西泰三（長崎大学）

コメンテーター：奥村綱雄（横浜国立大学）

(5) 第13回 NBER-TCER 東アジア経済セミナー

第13回目にあたる2002年はProductivityをテーマとし、オーストラリアのProductivity Commissionをホストとして6月20-22日にオーストラリアのメルボルンで開催された。オーガナイザーは伊藤隆敏（東京大学）とAndrew Rose教授（カリフォルニア大学バークレー校）であった。共催者の一つであるTECR側の担当者は深尾京司（一橋大学）が務めた。日本からは他に宮川努（学習院大学）、河井啓希（慶応大学）、伊藤恵子（国際東アジア研究センター）が参加した。報告論文の多くはThe University of Chicago Pressから出版される本”Productivity East Asia Seminar on Economics Volume 13”に収録される予定であり、改訂中の草稿は<http://www.nber.org/books/ease13/>からダウンロードすることができる。第14回は2003年6月に台北で開催される予定である。

(6) TCER ミクロコンファレンス

今年度のTCERミクロコンファレンスはディセントラライゼーションコンファレンスと共催の形式で、10月12日（土）に広島大学経済学部（東広島キャンパス）にて行われた。

午前中は、途中のコーヒーブレイク（10分）を含めて10時30分から12時20分まで、2つのパラレルセッションにおいてそれぞれ2つの発表がなされた。報告時間は質疑を含めて50分であった。午後のセッションはコーヒーブレイク（15分）を含めて13時30分から16時15分まで行われ、これも各パラレルセッションにおいて3つの発表がなされた。さらにその後、16時30分から17時30分まで大阪大学の梶井厚志教授の招待講演が行われた。総参加者数は約50名で、各セッションとも活発な質疑が行われ、有意義なコンファレンスとなった。

プログラム委員及び発表論文タイトルの一覧は下記の通りである。

○プログラム委員

伊藤秀史（一橋大学）、大河内治（広島大学）、岡田章（京都大学）、小川英治（一橋大学）、久本久男（神戸大学）、松井彰彦（東京大学）、関口格（京都大学）

○招待講演（座長 今井晴雄（京都大学））

講演者：梶井厚志（大阪大学）（共著者 宇井貴志）

講演題名：“A Unified Approach for Global Games, Purification, and Quantal Response Equilibria”

○一般発表

午前Aセッション（座長 久本久男（神戸大学））

発表者：入谷純（神戸大学）（共著者 宮川敏治）

論文題名：“Theory of Approximation”

発表者：伊東多聞（筑波大学システム情報工学研究科）（共著者 金子守・大澤裕一）

論文題名：“Comparative Statics in Rental Housing Markets with Indivisibilities”

午前Bセッション（座長 伊藤秀史（一橋大学））

発表者：宮原泰之（神戸大学）（共著者 宮川栄一・関口格）

論文題名：“Repeated Games with Observation Costs”

発表者：末廣英生（神戸大学）（共著者 小林創）

論文題名：“Emergence of Leadership in Teams”

午後Aセッション（座長 岡田章（京都大学））

発表者：加田修（横浜国立大学）

論文題名：“Belief, Hypothetical Belief and Backward Induction”

発表者：池田潔（北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科）

論文題名：“Lexicographic Expected Utility for Rational-Valued Lotteries”

発表者：秋山英三（筑波大学）（共著者 佐藤譲）

論文題名：“Behaviors in Rock-Paper-Scissors Game”

午後Bセッション（座長 三野和雄（神戸大学））

発表者：工藤教孝（関西大学）

論文題名：“Matching, Bargaining, and Dispersed Values of Fiat Currency”

発表者：清水崇（一橋大学）（共著者 神谷和也）

論文題名：“Real Indeterminacy of Stationary Equilibria in Matching Models with Media of Exchange”

発表者：飯味淳（国際協力銀行開発金融研究所）

論文題名：“Product Differentiation and Network Externalities in Cellular Phone Market in Japan”

編集後記

2002年度2号目のNewsletterをお送りいたします。当初1月発行の予定でしたが大幅に遅れましたことをお詫び申し上げますと共に、お忙しい中、執筆をいただいた方々に感謝申し上げます。

また、すでにお知らせしましたように会員登録情報の更新を受け付けております。情報更新にご協力をお願いいたします。

Newsletterに関するご意見やご感想は、代表理事 山崎昭、または
総務理事 玉田康成 tamada@econ.keio.ac.jpまでご連絡下さい。